

道連ニュース

2026年8月号 No.236

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

6月9日
火

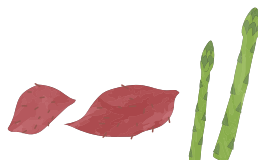
北海道生協連70周年記念事業真狩高校連携企画第1弾

真狩高校園場見学会開催しました。

この企画は「環境と食料生産を考える」と題し、温暖化の中での農業の持続可能性を消費者の立場で探ることを目的に、「20年後の農業を今、始めよう」の合言葉で環境再生型農業の探求で様々な賞を受賞している真狩高校有機農業コースの実践を学ぶ機会として実施しました。



6月9日(火)真狩高校園場見学会には参加者38名が参加致しました。当日は、バス内で「土を育てる農業」のミニ学習を行い、園場見学会に臨みました。真狩高校有機農業コースの生徒さんが、「土を育てる農業の探求」として取り組むリジェネラティブ農法(緑肥・不耕起栽培)炭素循環農法(もみ殻堆肥とキノコ廃菌床で栽培)菌ちゃん農法(糸状菌のネットワークを育て、森の仕組みを再現する)の園場について、真狩高校教諭3名生徒17名が3班に分かれ、ローテーションで各区の説明とそれぞれリジェネ区ではキャベツ定植・小豆播種、炭素循環区ではサツマイモの定植、菌ちゃん区ではキャベツ・サツマイモの定植、炭素循環区ではアスパラ収穫を、一緒に作業を行ないながらコミュニケーションをとりました。



それぞれの農法は、生産性に課題はあるも温暖化と連作による土壌の負荷、人手不足、農業資材の高騰の中、「微生物の活用と土壌再生に着目した土づくり」として世界でも見直されている取組です。高校生の皆さんの真摯な説明と質疑応答に参加者も納得でした。真狩村広報、道新俱知安支局の取材がありました。次回10月7日(火)は栽培報告会を現地で開催します。



・参加者の感想・

- 真狩高校の取り組みを丁寧に説明していただき、また一緒に作業させていただいてとても楽しかったですし、勉強になりました。特に、不耕起栽培方法にはびっくりでした！有機農業を学び実践している高校生さんたちの姿に頼もしさを感じました。農業を取り巻く環境は厳しいと思いますが、私も消費者として、生産者さんに感謝しつつ、大切に食べていきたいと改めて感じました。
- 真狩高校で、有機栽培にもいろいろな工法があり研究して実践に向けた活動をしている現場で実際に話を聞きながら体験をさせて頂き有意義な時間を過ごせました。
- 真狩高校の高校生にたくさん質問もできました。有機野菜のための土について、菌糸や微生物、炭素が必要＝森林の土作り＝栄養価の高い野菜になる→食卓に並ぶ→体が喜ぶ＝地球に優しいという素晴らしい取り組みだと思いました。今後も気になりますので、次回も参加したいです。秋の収穫がとても

楽しみです！"

- 何年か家庭菜園をやっているが、土改良の成果が見えるまで時間がかかる。色々試したいと思うタイミングでの高校の圃場を見れた事はとても貴重な体験でした。質問にも真摯に回答してくれて、感謝です。すぐでなくても、将来食の担い手になってくれたら良いな。
- 真狩高校を知ることができて、とても良かったです。生徒さんたちが目をキラキラさせて、日頃学んでいることを教えてくださり、これからの日本の未来が楽しみになりました。

農業は私達が生きていく上でとても大切なものですが、後継者問題、金銭的な問題、自然環境の問題などあり、どうしたものかと悩んでしまいます。

今一度、沢山の人たちが自然の力に目を向けることで、時間はかかるかもしれないけれど、私達の健康も地球の健康も良好になり、より一層日本の未来が明るくなっていくと良いなあと思います。

北海道生協連70周年記念事業真狩高校連携企画第2弾

6月17日
水

「土を育てるサステナブル菜園づくり」 開催致しました。

この企画は、真狩高校有機農業コース監修のもと、ホクレンくるるの杜のご協力で20坪の圃場をお借りし、「土と微生物の力により野菜が育つ仕組みを利用し、環境に負荷を与えない栽培方法」を実際に取り組みでみることを目的に実施しました。

6月17日には真狩高校の生徒8名＋教諭1名、参加者は13名にて、圃場での播種、苗植え完成しました。

圃場において、リジェネ区（緑肥クローバーが育てる畑）ではキャベツ定植・小豆播種、炭素循環区（もみ殻キノコ廃菌床が育てる畑）ではキャベツ定植、サツマイモ苗定植、菌ちゃん区（菌ちゃんが育てる畑）では、トマト、キャベツ、レタスの定植、大根播種、新規にノーディグ区（堆肥と段ボールで育てる畑）では、トマト、なす、レタス、キャベツの定植を行いました。事務局（コープさっぽろ・生活クラブ・道生協連）が事前にそれぞれの圃場の準備をしてきました。初めて体験することで、興味深々でした。当初は雨が少なく、圃場の散水に苦労しましたが、緑肥も順調に成長し、苗の成長も感じられます。やはり慣行栽培よりは、成長が遅いですが、トマトやナスの生育し、レタスは巻き

4つの農法で菜園づくり



クローバーが育てる畑

根粒菌が空気の窒素を集めて野菜を育てます



もみ殻ときこの廃菌床が育てる畑

もみ殻の炭素が微生物を増やし野菜を育てます



たい肥と段ボールで育てる畑

段ボールが雑草を抑えてミミズの餌になり野菜を育てます



菌ちゃんが育てる畑

糸状菌や窒素固定菌などいろんな菌類が野菜を育てます



はじめ、キャベツは青虫の被害にあいながらも、葉も大きくなり始めています。リジェネ区や菌ちゃん区のキャベツは青々とした生長ができています。

今後、草丈管理をインスタで発信しながら、参加者にご協力いただくことをお願いしています。次回は10月14日(水)栽培報告会を現地で行います。

※不定期ですがインスタで菜園の様子を発信しています。



@EAFRSUS

企画趣旨



私たちの食卓に欠かせない牛乳や乳製品がどのようにつくられているのか、親子で一緒に体験を通して楽しく学ぶ機会を提供します。恵庭市のむらかみ牧場で、乳搾りやバター作り体験を通して、動物とのふれあいや命の温かさを感じ、食への感謝の気持ちを育みます。

この企画は、SDGs（持続可能な開発目標）の「つくる責任つかう責任」や「陸の豊かさも守ろう」にもつながる第2弾企画 食育の一環として、親子で楽しみながら「食」や「いのち」について体験的に学ぶことを目的としています。



開催日時：2026年7月4日(土)

参加者：大人19名、子供21名、学生7名、事務局3名 計50名

会場：むらかみ牧場（恵庭市）



牛の乳搾り体験で感じた「命のぬくもり」

最初に行った乳搾り体験では、初めて牛に触れる参加者も多く、「牛ってあったかい!」「思ったより勢いよくでてきた」など、驚きや発見の声がたくさん聞かれました。実際に牛の体に触れ、自分の手で乳を搾ることで、普段何気なく飲んでいる牛乳が毎日の丁寧な世話や搾乳



によって届けられていることを実感しました。また、酪農家の皆さんから牛の健康管理や仕事の工夫についてのお話も伺い、命を預かる仕事の大変さや責任の重さを学ぶ貴重な機会となりました。



バター作りを通して学ぶ食のありがたさ

乳搾り体験の後は、搾りたての牛乳を使ったバター作りに挑戦しました。容器を何度も振り続けると、少しずつ牛乳が変化し、やがてバターへと姿を変えていきます。その変化を目の前で見ることができ、子どもたちは興味津々。「本当にできた!」「自分で作ったバターはおいしい!」と笑顔があふれていました。完成したバターを味わうことで、普段当たり前で食べている食品も多くの手間や時間をかけて作られていることを楽しみながら学ぶことができ、食べ物への感謝の気持ちを育む時間となりました。



動物とのふれあい

牧場内では自由に散策しながら、ヤギなどの動物たちへの餌やりも体験しました。最初は少し緊張していた子どもたちも、動物たちと触れ合ううちに自然と笑顔になり、優しく声をかけながら餌をあげる姿が見られました。動物たちを間近で観察することで、生き物一つひとつに命があることや、その命を大切にする事の大切さを改めて感じる事ができました。また、親子で協力しながら体験を楽しむ姿や、参加者同士で感想を伝え合う様子も見られ、自然豊かな牧場ならではの温かい交流の時間となりました。



体験を通して得た学び



今回のバスツアーを通して、牛乳や乳製品は動物や自然、そして毎日努力を続ける酪農家の皆さんによって支えられていることを学びました。実際に体験することで、食べ物が食卓に届くまでには多くの人の努力や命のつながりがあることを実感し、参加した子どもたちだけでなく、私たち学生スタッフにとっても食べ物を大切にする気持ちや命への感謝を改めて考える機会となりました。

今後こうした体験型の企画を通して、子どもたちが環境や食について楽しみながら学び、自分たちにできる行動を考えるきっかけづくりを行っていきたいと考えています。

2026年度 会員生協役員変更のお知らせ

* 新任 ○ 常務理事 □ 常勤理事 (敬称略) 2026. 7. 1現在

会 員 名	理事長名	専務理事名
コ ー プ さ っ ぽ ろ	大見 英明	小松 均 ○米内 徹 *○石山 博文
生 活 ク ラ ブ	片桐 葉子	畑 玄理 □多田 健介 *□長谷川 慎 *□三木 将貴
北海道労働者共済	藤盛 敏弘	原山 元志
さっぽろ高齢者福祉	小松 徹人	柿原 尚美
あさひかわ福祉	*羽川 隆雄 (代表理事)	倉島 正
北海道電力	佐々木邦彦	坂本 哲也
北海道学校	山谷 一夫	五十嵐泰浩
網走四地区学校	五十嵐 巖	○水嶋慎一郎

会 員 名	理事長名	専務理事名
大学生生活協同組合連合会 事業連合北海道地区	齋藤 真廣 (運営委員長)	*○藤巻 正之
北 海 道 大 学	坂爪 浩史	齋藤 真廣
北 海 学 園	佐藤 信	平清水辰人
酪 農 学 園	吉田 磨	古屋 麻実
北 星 学 園	片岡 徹	浦瀧 誠二
札幌学院大学	大國 充彦	浦瀧 誠二
北海道教育大学	角 一典	古屋 歩
室 蘭 工 業 大 学	川村 志麻	出野 暢一
帯 広 畜 産 大 学	木下 幹朗	伊藤 孝英
北 見 工 業 大 学	白川 龍生	* 浅田賢一郎